

宮崎神宮

養正

ようせい

一正



「養正」とは

神日本磐余彦天皇が第一代の天皇に即位される際のご聖勅「上八則天乾靈ノ國ヲ授ケタマヒシ徳ニ答へ、下八則天皇孫ノ正ヲ養ヒタマヒシ心ヲ弘メム」からいただいた由緒ある名称です。

ごあいさつ

宮司 本部 雅裕

盛夏の候 皆様には益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃は、宮崎神宮に對しまして篤いご崇敬とご協賛をいただいてをりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、去る令和五年四月二十二日より二日間の日程で先進国首脳会議の農業大臣会合が宮崎市において行はれました。その一行は、会議の合間に県立宮崎農業高等学校や、マングー農家にも訪れましたが、宮崎神宮にもそろってお詣りをいただきました。(玉串拝礼などはなく、表敬といふ形でした) 以下私の感想を述べてをきます。

七カ国とEUの農業大臣は、我が国の野村農水大臣(鹿児島県選出)を筆頭に、三の鳥居で下乗され、大太鼓による参進の太鼓が鳴り響くなか、神門を通ったところで雅楽の演奏、そして巫女四人の浦安の舞を右

手に見ながら、拝殿へと進まれました。左手には、宮崎産の鮮魚、野菜、果物、それに焼酎やお茶、お菓子が庭積みの神饌としてお供へ物(当神宮の新嘗祭を再現した)があり、それも熱心にご覧になりました。昼食は宮崎県神社庁「神宮会館」に場所を移し、お取りいただきました。食事の途中には宮崎神宮に伝はる獅子舞も披露しました。

一連の行事が済み、担当の県職員から各国の農業大臣の宮崎神宮での感想を聞く機会がありました。それによると、先づ、境内の新緑と見上げれば真つ青に晴れ渡った空、それにあでやかな巫女の装束と庭積み神饌のお供への色合ひ、次に、参進の大太鼓と雅楽の音色、それに獅子舞の太鼓、つまり色と音とが特に印象に残ったといふことでありました。

これらは清浄を尊ぶ神道を、神社を、的確に感じ取り、表現されたものであらうと考へます。外国の皆さ



浦安の舞



フォトセッション



氏子青年による獅子舞披露 於神宮会館



当宮新嘗祭を再現した庭積神饌

《奉献者》 ※順不同 敬称略

- ・J F 宮崎漁連・J A グループ宮崎・宮崎青果
- ・宮崎中央青果・雲海酒造・霧島酒造・京屋酒造
- ・明石酒造・宮崎県茶商連合会・御菓子司上野
- ・おかし屋さんhapihapi
- ・リューヌ・ドウ・プランタン

※多大なるご理解ご協力を賜りました関係各位に、衷心より厚く御礼申し上げます。

なほ、奉献品は市内福祉施設にお頒ち致しました。

まが僅かな時間を宮崎神宮で過ごされたなかで、このやうに感じていただきたことは、誠に有り難いことでした。さらに、昼食会場では皆さま和氣藹々の中で食事を、また私の宮崎神宮に関する講話もお聞きいただきました。宮崎牛や宮崎の魚、野菜を見事な箸さばきで上がりになりました。ご飯はえびの米にカライモ（宮崎ではこのやうに言ふ）を炊き込んだ「カライモ飯」でした。神宮会館の小野調理長が考へ抜いたメニューです。これも完

食でした。（実は戦後の食糧事情の厳しい時代、米を少なくしたカライモ中心の代用食のひとつです）
 ご一行がお帰りの際、野村大臣から「カライモ飯は、もつとイモが多いほうがよかったね」と言ってもらいました。
 どうぞ皆さま、お揃ひで宮崎神宮に、また披露宴など神宮会館にも気軽にお出で下さいますやうお待ち申し上げます。



広報デザインは宮崎の豊かな自然・風土（太陽＝ひなた・山＝緑・大地＝黄土・海＝紺）を、G7 各国の国旗に使われてゐる6つのカラーと、「日本のひなた宮崎県」のカラーを使用して、宮崎らしさとおもてなしの心が表現されてゐます。温暖な気候に恵まれた宮崎県は、平成30年度に農林水産省が行った調査で、生産額ベースの総合食料自給率が全国1位の281%となりました。本会合は、全国有数の農業県として発展してきた宮崎の特色ある農業の取り組みや食材を、全世界に発信する機会となったことと思ひます。

コロナ禍を振り返って

令和元年十二月八日、中国の湖北省武漢で、最初の新型コロナウイルスの感染者が確認されました。以後、感染者は瞬く間に世界中へ拡大し、国内では感染急拡大時には緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置や医療緊急警報が発令され、外出自粛要請、事業者への休業要請、飲食店などの営業時間短縮、イベントの開催制限等、「新しい生活様式」の名の下、これまでの日常が一変されました。

神社界においても、祭典の縮小や中止等余儀なくされました。令和三年に宮崎県神社庁が県内神社を対象に行った調査では、最も重要な祭典である例祭は、九十七%の神社が斎行したものの、うち八十八%が規模縮小、また神楽や特殊神事はおよそ半数の五十四%が中止されたやうです。

しかしながら、徐々に社会的行動制限が緩和され、令和五年五月八日には感染症法上の位置づけが「二類相当」から「五類」に移行されました。これに先立ち当宮では四月三日の神武天皇祭併社大祭から直会までの一切を以前の形で執り行ひ、またこの頃より県外や国外からのお参りも増え、境内は賑はひを取り戻しつつあります。

未だ終息には至りませんが、一つの区切りとしてコロナ禍における当宮の様子を振り返り、以下記したいと思ひます。

日々の祈り

令和二年三月四日付秘書発第一五〇号を以て、神社本庁より日々の日供祭において「新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭」執行の旨が、全国の神社へ通知されました。

以来当宮では欠かずことなく、毎朝六時三十分からの朝御饌祭もしくは各種恒例祭に併せて執り行つてきましたが、この度の「五類」移行にあたり、令和五年四月十四日付秘書発第一五六号を以て、「新型コロナウイルス感染症衰勢奉告祭」執行の旨通知があり、令和五年五月十五日の神武養正講社月次祭に併せてご神前にご奉告、感謝申し上げるとともに、今後疫病の災禍無きことをお祈り申し上げました。

また、「疫病祓・息災長久御守」を奉製し、令和二年五月より授与を開始しました。この御守は、撰社皇宮神社鎮座の宮崎市下北方町に古来伝はる疫病除の「ゴンゾ様」（本誌一五五号参照）の御神徳にあやかっただもので、当初は奉製が追いつかないこともありまし

た。ご本人はもとより、ご友人や遠方にお住まいのご家族の分まで受けられる方も多く見受けられ、これまでに約九千体が授与されました。



新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭祝詞

此頃悪き流行の疫病の入りて国内の諸々多に患ふが故に大神等の広き厚き恩頼を蒙らしめ給ひ一日も速けく禍事を除き拂ひ却り給ひ清く平穩に成さしめ給へと恐み恐みも白す

（令和五年五月十四日まで）

新型コロナウイルス感染症衰勢奉告祭祝詞

掛けまくも畏き宮崎神宮の大前に恐み恐みも白さく曩に告奉りし事の如く予て悪き疫病の災禍入りて国内の多なる人甚激しく苦み悩むが故に医師等官人等を始め天下四方の国民に至るまで禍事を除き拂ひ却らむと心を盡し励みて神職等も一向に乞祈奉りて在りし程に其の甲斐も著く禍禍しき疫病の勢ひ愈々衰へて世情平穩に成らむ徴有れば是れ専ら大神等の高き尊き大神御徳に依る事と嬉み忝み奉り

今日を生日の足日と選び定めて大前に御饌御酒種種の味物を献奉り謝び奉る状を平らけく安らけく聞食し諾ひ給ひて今ゆ往先も大神等の広き厚き恩頼を蒙らしめ給ひ御氏子崇敬者を初め遍く世の人を疫病の災禍無く身健に守恵み幸へ給へと恐み恐みも白す

（令和五年五月十五日）



ゴンゾ様

お祭り

国内で最初のコロナウイルス感染者が確認されたのは令和二年一月、県内では同三月のことでした。遠く離れた国で確認された疫病が、こんなにも早く身近なものにならうとは、またここまで影響が長引くとは当時は思ひもませんでした。

これより当宮の各種祭典や催事は、縮小や中止を余儀なくされました。



・三日の神事流鏝馬は、ボーイスカウトの子供達の奉仕が叶はず、急遽宮崎県神道青年会に協力を依頼し、また新聞広告や拝観台設置の取り止め等、あらゆる制限の下での齋行となり、拝観者も例年の半数となる約五百名にとどまりました。

四月七日にはさらに状況が一変します。国が緊急事態宣言を発令し一部区域に緊急事態措置を実施、同十六日に全都道府県の区域に拡大されると、四月期の神符守札授与料が、平成三十年から現在までの月別で最少となる等参拝者が激減し境内は閑散としました。

四月十九日の御大礼の掉尾を飾る立皇嗣の礼、及び当日神社に於て行ふ祭祀は同十一月八日に延期され、その後も半年の節目に執り行ふ夏越の大祓は例年の半数となる約三百名の参列、撰末社夏祭は子供神輿の渡御が中止となりました。

また、例祭は案内を役員総代等一部関係者のみに制限し執り行ひましたが、御神幸祭（神武さま）は雨天中止を除くと昭和天皇御不例による昭和六十三年以来の中止、奉祝剣道大会、四半的の大会も中止となりました。

なほ、御神幸祭は「御幸之儀」として執り行ひ、神武さま広場内（市内高千穂通）御駐輦所に御輦を奉安し、多くのお参りをいただきました。



◆ ◆ ◆ ◆ ◆
令和三年も一月、五月、八月に県独自の緊急事態宣言発令や、国のまん延防止等重点措置区域に指定されるなど、終息の兆しが見えませんでした。

一月十一日の元服式は三月十四日に延期、神事流鏝馬は一部制限のもと執り行ふ予定でしたが、生憎の雨天により川原祓の儀、流鏝馬本儀は中止となりました。

しかしながら、四月二十五日には東京五輪聖火安全祈願祭を約三百名参列のもと執り行ひ、参道を埋め尽くす約一千五百名の観客が見守る中聖火が発発し、境内は久しぶりに賑はひました。



年間を通して前年より祭典案内の規模を拡大しましたが、参列者は多い時でも例年の半数にとどまり、また御神幸祭や夏祭り子供神輿渡御をはじめ、建国記念の日奉祝市民マラン大会、例祭奉納剣道大会及び四半的の大会等は中止となりました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
徐々に以前の形に戻り始めたのは令和四年になってからのことでした。一月下旬より国のまん延防止等重点措置区域に指定されましたが、二月の紀元祭や祈年祭はコロナ禍前とほぼ同数の参列を得て執り行ひ、神事流鏝馬も日曜日といふこともあって、拝観者は約一千五百名を数へました。



撰末社夏祭の子供神輿は、撰社に限っては地元区民の要望があつたため三年振りに渡御、末社は中止となりましたが、本祭に総代、親子会保護者、子供達が約九十名参列されました。

そして何よりも令和四年の御神幸祭が執り行へましたことは、当宮はもとより県民にとつて大きな一歩であつたと思ひます。大淀御旅所間を往復し、沿道には一日目が八万人、二日目目が六万人、合計で前回の令和元年より三万人増の十四万人が訪れ、三年振りの齋行といふことで、喜びも一入であつたやうです。

初詣

感染初期より集団感染防止のために密閉・密集・密接を避けるやうに政府が呼びかけた、いはゆる「三密防止」により外出を自粛する情勢にあつて、初詣参拝者の減少は想像に難くありませんでした。

幸ひにも令和二年は、国内では感染拡大前でしたので例年通りのお参りをいただきましたが、令和三年は全国の多くの神社にて、正月三ヶ日に限らない分散での参拝が推奨されました。この一環として当宮では、例年十二月三十日の新聞広告を正月事始めの日にあたる十二月十三日に変更し、破魔矢、熊手、干支の置物等の縁起物を初めて年末から授与しました。さらに政府が年末年始の帰省や旅行の自粛を呼びかけたため、遠方にお住まいの方に向けて郵送での御守の授与も受け付けました。

結果、正月三ヶ日は前年比十二万人減の十四万三千人、授与料は約四割減となりましたが、十二月から三月までの合計で比較すると、どうにか約二割減程度にとどめることができました。

令和四年も前年と同様の対応をしましたが、正月三ヶ日の参拝者は予想



を超えてコロナ禍前に近い二十三万四千人となりました。しかしながら、縁起物は前年授与数を勘案して準備してゐた為、新年早々に授与が終了となり、皆様に大変ご迷惑をお掛けすることとなりました。

ご祈願・結婚式

コロナウイルス感染拡大の影響は、当然のことながらご祈願にも及びました。令和二年度は初宮詣約一割減、厄祓約二割減、特に大人数での披露宴を伴ふ結婚式は約六割減となりました。主に初宮詣や安産等の時期が限定される祈願を対象に、郵送での申込も受け付け一定の効果はありましたが、ほとんどが昨年比減となりました。

また、社殿内の密防止

の対策にも苦慮しました。特に繁忙期にあたる七五三詣や年頭の会社参拝は、昇殿人数を制限せざるを得ませんでした。皆様のご理解もあつて大きな混乱はありませんでした。



一方で、祈願の中でも大きな割合を占める七五三詣は例年通り年間二千七百件、車祓も二千百件前後で推移したことには安堵しました。この傾向は令和四年度まで同様でしたが、七五三詣はコロナ禍前と比較して、年を追ふごとに平日及び十二月から三月にかけて大きく増加し、かねてよりの分散傾向に拍車

がかかったやうに感じます。なほ、全体の祈願数は令和三年度から徐々に増加し、令和四年度にはコロナ禍前とほぼ同数となりました。

有り難い日常

疫病蔓延と聞くと、どこか遠い昔のこのやうに思つておりましたが、医療が発達した現代にも起こり得るもので、その脅威により長い年月をかけて築き上げられてきた日常が、あつといふ間に失はれていく様を目の当たりにしました。

この三年半で急速にデジタル化が広がり、利便性は高くなりましたが、外出も思ふままにならないコロナ禍にあつて、皆が渴望したのは何不自由なく人と人とが触れ合へた日常であつたこととせう。

古来、為す術もない疫病に対し人々が唯一なし得たのはひたすら祈ることであり、神社の祭を通して地域住民が一体となり祈りを体現することで、日常が守られてきたのだらうと思ひます。



やうやくコロナウイルスも衰勢し、かつての日常に戻りつつあります。皆様の日々の祈りの上に、何気ない有り難い日常がいつまでも続きますことを願ふばかりであります。





事業

令和四年度事業報告

▼神武天皇祭併講社大祭をはじめとする祭典は、令和三年末までは案内が縮小されてきたが、徐々に通常に戻され講員の参列も増えた。但し直会は中止。▼御神幸祭（神武さま）が三年ぶりに執り行はれ、両日とも講員約三十名が供奉された。▼総会は西尾武彦講長就任以来初めて講員が集って神宮会館にて執り行はれ、終了後には宮司より講話を賜った。▼理事会は年三回開催。▼第四十七回皇居勤労奉仕団は、三度目の申請で令和五年一月奉仕の内定を得たが、コロナウイルス感染者が増加傾向にあったことから、受入中止の旨宮内庁より連絡があり奉仕叶はず。▼社報『養正』二回配布。▼十二月中旬より三月末日まで正月破魔矢、神符の授与を行った。

令和五年度事業計画

▼四月三日神武天皇祭併講社大祭は、約百名が参列され、直会も神宮会館で執り行った。▼御神幸祭は十月二十八・二十九日に瀬

昨年度宮崎神宮では三年振りの御神幸祭（神武さま）が執り行はれ、また当講社の活動も西尾武彦講長が就任して初めて講員が集って総会を執り行ふ等、コロナ禍より通常に戻りつつあります。この度のコロナウイルスの感染症法上の位置づけが「二類相当」から「五類」に移行されたことにより、今後講員同士が顔を合はす機会も多くなると思ひますので、どうぞ忌憚のない意見をお聞かせいただき、講社活性化のためにご協力賜りますようお願い申し上げます。

頭御旅所往復にて執り行はれる予定。▼理事会は三回開催予定。▼総会は神宮会館にて開催。総会後に本部宮司より講話を賜った。▼第四十七回皇居勤労奉仕団は、十一月に派遣予定。団長は西尾武彦講長。▼社報『養正』を二回配布。▼正月には破魔矢、神符を授与予定。

役員退任

・ 講員総代

恒久 杉山金吾 令和四年十一月三日付

大塚 谷口久義 令和四年十二月十九日付

神宮東 河野 喬 令和四年十二月二十六日付

・ 理事 井野義美 令和五年五月十日付

・ 理事 児玉静雄 令和五年五月十日付

・ 監事 中水明美 令和五年五月十日付

・ 幹事 日高憲司 令和五年五月十日付

役員員新任

・ 講員総代

大塚 田崎政則 令和四年十二月二十日付

・ 監事 森山福一 令和五年五月十日付

○任期は令和七年三月三十一日まで

会計

一般会計決算及び予算

科目	令和4年度 決算額	令和5年度 予算額	備考
(歳入)			
諸収入	707,002	939,374	
講費収入	683,500	900,000	講員5区分
受取利息	2	10	普通預金利息
雑収入	23,500	39,364	寄附金他
前期繰越	697,643	610,626	
歳入計	1,404,645	1,550,000	
(歳出)			
講社費	744,019	1,150,000	
事業費	330,172	500,000	神徳宣揚費
会議費	110,920	150,000	総会、理事会費
本部費	213,511	340,000	奉仕団諸費、通信費他
交通費	0	0	
御神幸祭費	89,416	130,000	直会費 他
予備費	0	30,000	
式年遷宮積立金支出	50,000	50,000	第63回神宮式年遷宮
次期繰越	610,626	350,000	
歳出計	1,404,645	1,550,000	

一般会計次期繰越金

区分	残高
現金	176,049
郵便振替	396,463
普通預金	38,114
合計	610,626

積立金会計決算

区分	金額
受取利息	213
前期繰越金	10,878,675
合計	10,878,888

遷宮積立金会計決算

区分	金額
前期繰越	400,013
受取利息	2
繰入金収入	50,000
合計	450,015

令和5年5月10日、川越悦生、中水明美両監事に監査を受けました。

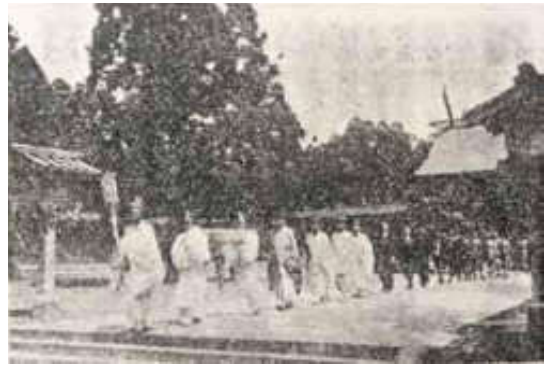


第47回建国記念の日奉祝市民マラン大会

コロナ禍により令和2年を最後に中止が続いておりましたが、3年振りに執り行ふことができました。肇国の神話と伝承に基づく建国記念の日を奉祝して、自由参加による市民マラソン大会を開催し、スポーツ精神の高揚を図り本県のスポーツ振興を期することを趣旨としておこないます。今年、市内34社からご後援及びご協賛を賜り、2歳から7歳までの総勢443名にご参加いただきました。御陰をもちまして滞りなく盛大に開催することができましたこと、衷心より厚く御礼申し上げます。

◆ 祭典・奉納行事

- 一月 一日 歳旦祭 夕御饌始祭 氏子青年会新春禊中止
新春奉納揮毫作品展(三七三三) 於徴古館(十五日迄)
- 二日 大御饌祭 新春奉納芸能
- 三日 元始祭 新春奉納芸能
- 七日 昭和天皇祭遙拝
- 九日 元服式(烏帽子親 小山田敏氏・元服者六名)
成人祭 第五十一回新春奉納揮毫作品展表彰式於社務所
- 二月 一日 宮崎空港ビル五所稻荷神社初午祭
節分祭 追儺行事
- 四日 撰社破魔矢祭(旧正月十四日) ※一部行事縮小
- 八日 紀元祭奉祝四半の大会
- 九日 MRT五所稻荷神社初午祭
- 十一日 紀元祭 井上真有紀氏奉納揮毫
奉祝式典(日本会議主催)
- 第十七日 第四十七回建国記念の日マラソン大会
祈年祭 御稻種頒種行事



献茶祭 ※写真は昭和12年

安政6年6月2日、横浜からわが国の茶をはじめて米国へ向け輸出する第一船が出荷出発したことに因んで、6月2日は全国的に茶業記念日と定められておます。当宮では昭和7年6月2日に、宮崎市内の茶業者の会が神前で第1回の「献茶の儀式」を行ひ、翌昭和8年には縣茶業組合が結成され、組合の主催で初めて「宮崎神宮献茶式」が行はれました。現在では宮崎県茶商連合会にご協力を賜り、本年の一番茶を御神前に奉り、茶業の繁栄をご祈念申し上げます。

- 二月 十八日 撰社祈年祭
- 二十三日 天長祭
- 三月 一日 末社初午祭(旧初午)
- 二十一日 春季皇霊祭遙拝 春分祭
- 二十四日 宮崎空港ビル五所稻荷神社例祭
- 四月 二日 神事流鏝馬川原祓の儀
- 三日 神武天皇祭遙拝 神武天皇祭併神武養正講社大祭
神事流鏝馬
- 五月 二十九日 昭和祭
- 十四日 御衣祭(市呉服商有志協力 御衣司 宮下繁一郎氏)
- 六月 十五日 新型コロナウイルス感染症衰勢奉告祭(併講社月次祭)
- 二日 献茶祭(県茶商連合会協力 献茶司 黒木信吾氏)
- 四日 御田植祭 於御神田(田長 秦安廣氏)
- 三十日 古神符焼納祭 夏越大祓 茅の輪くぐり神事
- ※毎月三日 月次祭(一・四月を除く) / 毎月十五日 講社月次祭
- ※各祭典に併せてコロナウイルス鎮静祈願詞奏上(五月十四日迄)
- ※各種行事の中止及び縮小はコロナ禍によるもの

◆正式参拝・団体祈願等◆

【令和四年十二月】七日（一社）宮崎県内水面振興センター安全祈願／近畿日東会商売繁盛祈願▼八日河野しゅんじ後援会選挙必勝祈願／(株)veily神恩感謝祭▼九日光硬化工法協会社運隆昌祈願▼十二日(株)バッグのあつた安全祈願▼二十八日神宮川畑整形外科・内科クリニック社運隆昌祈願▼二十九日宮崎大宮高等学校美術部正式参拝※干支絵馬奉納

【令和五年一月】一日宮崎神宮氏子青年会正式参拝▼二日神事流鏝馬射手稽古始正式参拝／宮崎青年会議所太鼓同好会正式参拝※奉納芸能▼三日井上社中わかな会・岡社中清流会正式参拝※奉納芸能▼七日宮崎青年会議所団体厄祓祈願▼八日宮崎青年会議所シニアクラブ十五夜会団体還暦祈願▼十一日（公社）宮崎労働基準協会産業安全祈願祭▼十六日テゲバジャード宮崎必勝祈願▼二十一日加納ハンドボールクラブ必勝祈願▼二十二日橋場義之氏正式参拝※古代米奉納▼二十四日皇學館大学河野訓学長正式参拝▼三十一日全国共済農業協同組合連合会宮崎県本部目標達成祈願祭／読売ジャイアンツ必勝祈願



建国記念の日奉祝揮毫

【二月】一日瀧谷直文氏正式参拝▼五日井上真有紀氏正式参拝※建国記念の日奉祝書奉納▼八日宮崎県豊工業組合針供養▼九日三共サービス(株)安全祈願▼十八日(株)ファースト・プランニング事業繁栄祈願▼二十日宮崎県神社庁正式参拝※初任神職研修会▼二十六日日向学院三八会団体厄祓



五所稻荷神社奉納灯籠

【三月】一日宮崎市消防団防火祈願祭▼二日宮崎サンシャインズ必勝祈願▼四日宮崎市神話・観光ガイドボランティア協議会正式参拝▼七日JA宮崎中央マンゴー部会マンゴー初出荷奉告祭▼九日G7宮崎農業大臣会合参加国大使館職員等正式参拝▼十二日AGTC2023成功安全祈願祭▼十五日宮崎國忠氏正式参拝▼十六日エネルギー(株)安全祈願▼十七日高食品工業(株)商売繁盛祈願▼二十一日(株)MTKエンジニアリングス社名改称奉告祭▼二十二日宮崎放送(株)・宮崎空港ビル(株)末社灯笼奉納奉告祭▼二十三日宮崎神宮宮童正式参拝※卒業式、進級式▼三十日山口としき氏県議会議員選挙必勝祈願▼三十日大志会吉村大志郎

氏県議會議員選挙必勝祈願▼三十一日右松隆央後援会連合会県議會議員選挙必勝祈願

【四月】一日(有)佐土原サニタリー社運隆昌祈願／(株)shin商売繁盛祈願▼三日 (株)テレビ宮崎安全祈願／テレビ宮崎商事(株)安全祈願／宮崎太陽銀行社運隆昌祈願／宮崎電子機器(株)安全祈願／(株)九州エナジー安全祈願▼四日(株)システム開発安全祈願／(株)OUR社運隆昌祈願▼六日(株)リクリア商売繁盛祈願▼十一日宮崎神宮敬神婦人会正式参拝※定例総会▼十二日宮崎商工会議所青年部安全祈願▼十五日高山秀明後援会市議會議員選挙必勝祈願▼十八日宮崎県神道青年会正式参拝▼二十四日宮崎国際バレーコンペティション実行委員会成功祈願▼二十五日宮崎県神社庁宮崎市支部正式参拝▼二十八日JA宮崎経済連養豚豚農場運営課安全祈願

【五月】十日宮交グループ創立記念奉告祭／ヤマト運輸(株)宮崎主管支店安全祈願▼十四日寺原聖山氏・聖山社御一行正式参拝▼十五日愛媛県神社庁伊予支部正式参拝▼十七日川端倫明氏・励子氏正式参拝▼二十二日江坂設備工業(株)正式参拝▼二十八日宮崎神宮宮童正式参拝※委嘱式

◆総代委嘱◆

宮崎商工会議所専務理事 中原 光晴
(令和五年四月二十六日)

◆氏子青年会会長委嘱◆

横山 雄一郎(再任)
(令和五年四月十五日)

” 献詠短歌 ”

「宮崎神宮献詠短歌会」は、昭和十六年三月に発足しました。爾来八十年の長きに亘り、三十一文字に思ひを込めて献歌してきました。

■令和四年被表彰者

成績優秀者に対し、選者より推薦を受けて表彰を行いました。

宮崎神宮賞 黒木 雅裕

選者特別賞 本部 雅裕

選者賞 永吉 寛行

■献詠募集 選者 小池 洋子

ハガキに楷書で丁寧に一首と

氏名、住所、電話番号を明記の上、宮崎神宮までお送りください。

※令和五年兼題

七月 雨 八月 魚

九月 盆 十月 秋分・彼岸

十一月 実 十二月 歩

※毎月五日締切

※選考結果は毎月末に応募者宛にお送り致します。

■問い合わせ先

宮崎神宮献詠短歌会事務局

電話〇九八五（二七）四〇〇四

担当 須田 出光 松元

■令和四年十二月 兼題「灯」

天

灯籠の明かりは仄か洞窟の乳房か
たちの岩でらしをる

日南市 黒岩 昭彦

地

黄昏の道に灯の近づきぬ迎へに来
し子息弾ませて

宮崎市 黒木和貴子

人

おそらくは見納めならむ皆既月食
門灯消して見る夕餉そこそこに

宮崎市 鐘ヶ江和貴

秀逸

川石の灯籠ゆへに苔むすと母はつ
ぶやく青さゆる朝

豊島区 野田 香織

秀逸

日の暮れの早くなりたる川の面に
橋の灯りの揺らめき止まず

宮崎市 徳永さち子

佳作

幼きに我が家めざして暗き道歩く
かなたに灯の見えき

宮崎市 松久 寅雄

佳作

「たたいま」と日娘の声を待ち
ながら時計を見つつ門灯を付く

小山市 永友 チエ

佳作

街灯を頼りて家に向かふ時ふと偲
ばるる門に立つ母

宮崎市 秋廣やす子

■令和五年一月 兼題「暮」

天

年の暮寒き朝より氏子等が笑いな
がらにしめ縄を繰ふ

宮崎市 河野 公俊

地

神風の伊勢の大麻を捧げ持ち班長
訪ふ師走の夕暮れ

宮崎市 本部 雅裕

人

年の瀬に暦にしるす予定表くい残
しつつ今日も暮れゆく

南九州市 赤坂よし子

秀逸

年の暮れ吹雪の中にゴミ出しを命
ずる妻にあらがひもせず

一宮市 伊藤 孝男

秀逸

中元も歳暮賀状も止めしとふ友の
断捨離を我が意としたり

熊本市 松山 浩一

佳作

お歳暮の替はりにと友は白菜をシ
ワクチャ袋に入れてくれたり

日南市 黒岩 昭彦

佳作

検品を了て積み上ぐ御守の幾重に
もなり年の暮れ行く

宮崎市 松元 由菜

佳作

旧友とはたちの集ひで語り合ふ振
袖姿は夕暮れに染まる

宮崎市 河野香実果

■令和五年二月 兼題「餅」

天

一升餅せおひて歩めずハイハイの
をさなに大人ら拍手をおくる

豊島区 野田 香織

地

餅のかび削ぎ落し居る妻の傍に炊
ける小豆の匂ひ立ち込む

宮崎市 須田 明典

人

引き揚げ後の貧しき日々を耐へ抜
きし父母に供ふる搗きたての餅

宮崎市 黒木和貴子

秀逸

念を押す妻の言葉を素直に聞く餅
食べる前ひと口お茶をと

熊本市 松山 浩一

秀逸

ぼんぼんと搗きたて餅をちぎりゐ
き母の手際には未だ及ばず

宮崎市 鐘ヶ江和貴

佳作

ふるさとの母の雑煮に餅二つだし
の香満ちて心足らひぬ

宮崎市 黒木 和子

佳作

膨らみしストープの上のあんこも
ち軍手の孫は祖母の指示待つ

宮崎市 河野 公俊

佳作

餅搗かぬ庭の石臼は鶏にやる唐芋
つぶしの道具となりぬ

宮崎市 甲斐嘉一郎

令和五年三月 兼題「風」

天

霜降りて「せんぎり風」の吹く畑
に大根を干す農婦笑みたり

地

さよならを言いたくなくて「じゃあまた。」と二月の風に乗せて送りし
宮崎市 伊達木新子

人

自転車の荷台に乗りゐし子も降りて押しゆく風の吹く王路坂
宮崎市 小松 京子

秀逸

真下から風力発電見た我は回る翼につられよけり
宮崎市 河野杏実果

秀逸

就職の集団面接けふ受けて春の風待つ六十五歳
倉敷市 萩原 節子

佳作

風読まず波にも乗らぬ我が夫と吹かれて揺れて長きを歩む
宮崎市 松浦 伸子

佳作

ほこり取り赤ランプ消えしエアコンよりさはさとして涼風入りく
宮崎市 甲斐嘉一郎

佳作

風神に遊ばれしかなまた逃げる帽子追ひたる少女愛らし
日南市 黒岩 昭彦

令和五年四月 兼題「竹」

天

侍ジャパン破竹の勢いそのままに激戦制し頂点に立つ
宮崎市 黒木 雅裕

地

少年と高さを競ふ竹とんぼ彌生の空に届けと飛ばす
宮崎市 黒木和貴子

人

春神楽斎庭を飾る御幣竹長さそろへて洗ひ清むる
宮崎市 須田 明典

秀逸

災害に負けずに育つ竹の子の真備町産が売り場に並ぶ
倉敷市 萩原 節子

秀逸

生い茂る孟宗竹を伐り取りて牛の餌にすとニュース伝へり
宮崎市 本部 雅裕

佳作

臨書する古典に「竹」の字見つけたり竹林想い凜と墨磨る
宮崎市 永吉 寛行

佳作

裏山にこさん竹採りし母思ふ友に配るを喜びとして
宮崎市 和田 洋子

佳作

「汁の身」にこさん竹採る父を真似ヤブに分け入りし五才の我は
宮崎市 松浦 伸子

令和五年五月 兼題「草」

天

大葉子の茎からませて勝負した下校の道の進まぬあの頃
宮崎市 河野 公俊

地

前庭の雑草やつと取りおえぬ天気予報はまた雨と言う
西都市 牧 忍

人

豆苗の伸び行くを日毎楽しみて夕餉の支度整へてゐる
宮崎市 松元 由菜

秀逸

藪陰に誰か忘れし軍手一つ嵌めてそのまま草刈り続ける
宮崎市 甲斐嘉一郎

秀逸

春野菜植えつけせかるる時期なれど草とる日々に今日もすぎゆく
南九州市 赤坂よし子

佳作

窓越しに春雷一閃とどろきて草木のかたち映し出したり
日南市 黒岩 昭彦

佳作

雨あとの堤に彩どるみやこ草その名に惹かれ摘みて帰り来
宮崎市 徳永さち子

佳作

摘み草を好みし母と勇み来し野辺にあまたの蕨採りたり
宮崎市 鐘ヶ江和貴

職員動向

令和五年一月から令和五年六月まで

社内辞令

権禰宜 緒方 啓吾
鎮西大社諏訪神社への出向を命ずる
期間 令和五年四月十五日迄
(令和五年三月十五日)

衛士長 山口 光徳
定年に依りその職を免ずる
(令和五年三月三十一日)

出仕見習を命ずる
祭儀課勤務を命ずる
黒木 悠杜
(令和五年四月一日)

衛士長を命ずる
衛士 宮崎昭治郎
(令和五年四月一日)

衛士を命ずる
山口 光徳
宮職課勤務を命ずる
(令和五年四月一日)

権禰宜 岩切 伊吹
鎮西大社諏訪神社への出向を命ずる
期間 令和五年五月十五日迄
(令和五年四月十五日)

出仕見習 黒木 悠杜
出仕を命ずる
(令和五年五月一日)

権禰宜 出光 弘忠
鎮西大社諏訪神社への出向を命ずる
期間 令和五年六月十五日迄
(令和五年五月十五日)

権禰宜 串間 慶士
鎮西大社諏訪神社への出向を命ずる
期間 令和五年七月十五日迄
(令和五年六月十五日)

大宮学校の記 (読み下し)

大宮村は日向の中央で、宮崎町の北僅か半里ばかりのところであり、そこには神武天皇を祭った神社がある。村民は約四千人位で、大部分は農業を営んでいる。それでこれまで勉強することはあまり盛んでなかった。

明治二十五年になってはじめて仮校舎を設けることができたが、建物はせまく、生徒も僅かである程のものではなかった。

明治三十二年神武天皇祭が行われ、遙か遠方から数千人の人達が参拝におとずれた。然し神社のある場所が大宮村であることを知っている者はなかった。

日向の国は日本の祖国であり、大宮村はその村名こそ新しいが実際には日向の祖村である。しかるに天下にそのことを知っている者がいないというのは、何故であるか。それは村民の教育程度が低くて、このことを天下に知らせる人物がいないうことによるのではないだろうか。どうやら村民もそのことを後悔しているようである。これ以後子弟に勉強させる者が急に増加してきた。そのため校舎はたちまち満員となって、あとを入れることができなくなってしまう。

時の松本村長はこの有様に喜び、一方では心配し、有志の人々と相談して、校舎を新築する計画をたて、県庁に願ひ出た。県庁はこれを許可したので、敷地を「神武さま」の北側のところにえらび、

その年の十二月に工事ははじめた。

明年松本村長がわけあって村長をやめたので、今の頼村長があとを受けついで、益々努力し、明治三十五年四月にできあがった。それはおよそ三カ年の月日と四千五百円の費用がかかっている。学校の敷地は千三百余坪。建物は百九十坪。南

向きで、用材は上等のもので丈夫にできており、実用的である。華美でもなく、下品で見ぐるしいこともなく、村の学校としてふさわしく立派なものである。

今後この学校に学ぶ者は、右のように二人の村長や村の人達が、学校をつくるために大変な努力をなされたことを思つて、ただ一心不乱に勉強し、村風を改善することにとつとめ

るだけでなく、村名をあげ、この地が神武天皇をお祭りしてあるところであることを、広く天下に知らせることに努力すべきである。

もしも勉強したためかえって、軽薄になり働くことをきらい、楽することを願ひ、棚からぼた餅式のことを考えるようになったならば、教育の本意に反し、村民の名譽を傷つけることになるばかりではないだろうか。

明治三十五年七月
(大宮地域まちづくり推進委員会設置看板より転載)



令和4年度大宮小学校卒業式

アオギリのやうに

明治三十二年、宮崎宮及び神武天皇降誕の靈域である狭野神社を莊嚴なものにして、太祖神武天皇を顕彰しやうといふ趣旨によって、神武天皇御降誕大祭会が設立されました。

地域住民の理解と協力と得て、現社殿の建設(明治四十年)等の事業展開により当宮の様相が一新されましたが、その趣旨が子供達の教育の場にも及んでゐたことや、神武さまを中心とした村づくりの歴史を伺ひ知ることができません。

現在でも大宮小学校児童には、御神幸祭や夏祭、さらに毎朝夕の御日供祭の神饌を届けていただく「宮童(きゆうどう)」のお務め等、当宮のことについて様々な場面で携はっていただいております。

これからも神武さまや地域の縁を大切に、学校の木「アオギリ」のやうに健やかに心正しく成長され、元氣な笑い声が響き渡る学び舎でありますことを願つてやみません。

